

平成 22 年 11 月 22 日

LME 銅価格推移と NY 銅市場の動き ～銅価格上昇の推移を追う～

銅が高値水準を維持している。現地 25 日の NY 銅は 2 年 3 ヶ月ぶりの高値水準まで回復。銅先物 12 月限は、前営業日比 6.6 ㇔高の 1 ポンド当たり 386.3 ㇔で終了。一時は 2008 年 7 月以来の高値となる 388.95 ㇔まで買い進まれた。銅の価格推移を追った。

銅 の価格転機点

銅の価格上昇の背景は原材料の投資需要拡大が要因だ。価格上昇の転換点となった日は現地 8 月 25 日。LME 銅が 7,067 ドルを付けた後、ほぼ右肩上がりの挙動を示している。同日前後は日本において、急速な円高・株安が問題視され、日経平均が 8900 円割を割り込み、円相場は一時 83 円台を付けた。リスク商品である株式や、下落する通貨から投資資金が商品市況へとシフトし始めた日であると言える。国内銅建値は同日に ㇔ 640 円と改定、同日が直近の底値となっている。

直近 の国際銅相場

直近の相場は、G20 の終了まで商品市況は様子見となった。その後、G20 で「通貨安競争」の回避で合意された。しかし、米連邦準備制度理事会（FRB）が国債の追加購入の観測が高まったことにより、ドル安が進行し、NY 銅相場は大幅高。ドル下落が代替資産としての原材料への投資需要を押し上げ、銅は 2 年 3 ヶ月ぶりの高値に跳ね上がった。

現地 25 日の LME 価格は、ドル安の進行により上昇。上海市場、NY 市場と共に商品市況が上昇したことも追い風となっている。LME 銅価格は前場に 8,501 ドルと 8,500 ドル台に乗せた。一方の国内相場は変わらず。市中の発生量の少なさも解消されずにいる状況だ。

亜鉛建値改定、千円上げの 25 万円へ～中国亜鉛工場休止により LME 亜鉛価格高騰～

26 日、亜鉛建値が改定された。前回(21 日)比 ㇔ 10 円上げの 250 円へ改定。現在までの月間推定平均は、㇔ 237.3 円。亜鉛は前回改定時の 10 月 20 日に 2,383.50 ドルを付けた後、中国・広東省の亜鉛鉛精錬所の休止による供給障害により国際価格である LME が急反発。現地 21 日の LME 亜鉛相場は前日比 73.5 ドル高の 2,457 ドルと急伸。9 カ月ぶりの高値となった。この中国工場の休止により相場が高値圏で推移している状態が続いている。

【日刊市況通信 平成 22 年 10 月 27 日掲載】